

会 議 録

会 議 名	2024 年度第 1 回東浦町社会教育委員会	
開催日時	2024 年 5 月 17 日（金）午前 10 時から午前 11 時 45 分まで	
開催場所	東浦町文化センター 視聴覚室	
出 席 者	委員	石原弘幸氏、松下玲子氏、平井伸幸氏、二宮邦子氏、水野智美氏、高崎義幸氏、鈴木達見氏、竹内元彦氏、鈴木浩美氏 藤原雅憲氏
	事務局	生涯学習課長、中央図書館長、スポーツ課長、生涯学習課係長、文化財係長、生涯学習課主事、生涯学習指導員
欠 席 者	教育長、教育部長	
議 事	1 社会教育委員の役割について 2 2023 年度社会教育事業実績について 3 2024 年度社会教育事業計画について 4 その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容		
◆事務局 委嘱状配付。 社会教育委員・教育委員会関係の自己紹介。 2024・2025 年度東浦町社会教育委員会正副委員長の選出。 委員長に石原氏、副委員長に平井氏に決定。 ◆あいさつ 委員長 副委員長 以降は委員長が議事を取り回す。 ◇委員長 次第に従い議事を進める。議事 1「社会教育委員の役割」について事務局から説明を求める。 ◆事務局 ○社会教育委員の役割について、配布資料に基づき説明。 <ポイント> ・資料の「あいちの社会教育委員ハンドブック」は、社会教育委員の活動の一助となるように愛知県教育委員会から発刊されたものである。 ・「社会教育委員の役割」や「社会教育委員の職務」について説明されているので、確認いただきたい。 ・社会教育委員は、それぞれの得意分野を生かして、日頃の活動から聞き取った住民の声を行政に届けていくことが大切である。 ・多様な地域の課題解決のために、防災や保健等の関係各課、民生委員等とのつなが		

りや連携を深めることが期待されている。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

「あいちの社会教育委員ハンドブック」を時間のある時に一読し、確認していただきたい。委員のみなさんは、それぞれの立場でアンテナも高くしていただき、住民や自分たちが所属している団体はどのようなことが問題になっているのか、東浦町には何が足りないのか等の要望をしっかりと受け止めて、この委員会に反映していただけるとありがたい。

「社会教育委員の役割」について更なる意見がないことを確認し、議事2「2023 年度事業実績」について事務局から説明を求める。

◆事務局

○生涯学習課の 2023 年度事業実績を配布資料に基づき説明。

<文化センターポイント>

- ・青少年教育事業の「フリーペーパー「いいだら東浦」制作事業」は、県立東浦高校と連携し、学生たちが、町の魅力を発信するフリーペーパーを制作し、町歩きイベントにおいて配布した。参加した高校生からは、「東浦町の良さをしれた。いろいろな人と関わることができた」といった感想が聞けた。郷土への愛着を高めると共に、自ら考え、多様な人と協力して物事を成し遂げる貴重な機会になった。
- ・生涯学習講座・教室は、文化センターが 23 講座、コミュニティセンターが 19 講座を開催した。
- ・地域学校協働活動は、2023 年度から開始し、地域学校協働活動の推進を図った。学校と地域をつなぐコーディネーターである地域学校協働活動推進員を、緒川小学校、森岡小学校で委嘱した。また、2024 年度 4 月には、生路小学校、西部中学校区でも委嘱している。
- ・部活動の地域移行の取組として、「ひがしうら地域クラブ」の吹奏楽活動を開始した。各中学校の音楽室等で、地域住民が指導者となり、毎週土曜日に活動している。

<郷土資料館ポイント>

- ・緒川コミュニティセンター敷地内にある緒川村郷蔵の建物について、郷蔵の西側に面している旧道の町道拡幅の要望が地元よりあり、移築先や保存修復等検討してきたが最終的に解体工事を行った。
- ・文化庁の補助金を活用した地域文化財総合活用推進事業として、生路北組の屋形整備事業を実施した。また、二次募集で、緒川神市場・緒川新町の屋形整備事業を実施した。
- ・森岡小学校、緒川小学校、卯ノ里小学校の児童に、地域文化財紹介動画「ふるさと PR ちびっこガイドになろう！」に取り組んでもらった。森岡小学校で「村木砦の戦い」、緒川小学校で「緒川村郷蔵」、卯ノ里小学校で「唐治屋敷の常夜灯・高根山烽火台跡」の文化財の PR 動画が作成された。それぞれの文化財の説明看板に QR コードを貼付けて紹介も行っている。
- ・講座・教室開催事業については、14 講座・教室で延べ 58 回行われ、273 名の定員のうち 214 名の参加があった。

<中央図書館ポイント>

- ・資料所蔵状況について、図書は 177,279 冊ある。来館者は前年度よりも少し増えている。本の貸出点数は 260,571 点で、2 年前から始まった電子図書館の貸出点数 8,000

点ほどを合わせると昨年並みになる。

- ・図書館事業として、「プログラミング講座ロボット“こくり”を動かしてみよう」は、パソコンで簡易なプログラミングを体験し、実際にロボットを動かす体験型ワークショップを行った。また、MLA 連携講座「水野氏と信長・家康」は、郷土資料館との連携による講座であり、地元縁の深い偉人を通じて郷土を学び、地域理解を深める講座であった。
- ・学校教育において読書感想文は、夏休みの自由課題になっている。そのため、感想文の応募点数は若干減っている。優秀作品につきましては、電子図書館サービスに掲載している。
- ・ベストセラーがなかなか出てこないが、特集展示をすることで、利用者にこんな本があると気付いてほしくて活動を続けている。

<スポーツ課ポイント>

- ・スポーツ教室は、6 教室受講者 115 人で、定員 136 人に対する受講者の割合は約 85% と好評であった。
- ・東浦マラソンは 12 月 17 日に実施した。申込者 1,380 人のうち 1,248 人の参加となり、昨年度に比べて 172 人の増加であった。新たにホームタウンパートナーシップ協定を結んだ FC刈谷の選手を招いたことも増加の要因の一つと考えている。
- ・「ひがしうら地域クラブ」は、2023 年 9 月から 5 種目を実施している。2024 年 1 月から 3 種目追加し、合計 8 種目を実施し、延べ 1,300 人の参加があった。このクラブは、部活動とは別に町が運営し、500 円の参加費で、全てのクラブに参加できることとした。
- ・社会体育施設等利用状況については、16,411 件 264,767 名で概ね昨年度と同様の傾向であった。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

生涯学習課も新しい取組が入ってきている。自分が委員を始めた頃よりも住民の要望に従った形になってきた気がする。自分は、地元の東浦高校を巻き込んでの取組が必要と感じていたが、今回それが取り入れられていたので良かった。また、図書館も良く努力されていると感じている。ネットの時代に、なんとか図書館に来てもらおうという努力がたくさんの取組から見る事ができた。また、スポーツ課においては、マラソンの参加者が他地区でも減ってきているが、刈谷 FC を呼んで参加者を減らさない取組が行われている。委員のみなさんも、この資料を見て、何か質問があったら、いつでも良いので確認してほしい。

「2023 年度事業実績」について意見がないことを確認し、議事 3「2024 年度事業計画」について事務局から説明を求める。

◆事務局

○生涯学習課の 2024 年度事業計画を配布資料に基づき説明。

<文化センターポイント>

- ・家庭教育事業では、各小学校で家庭教育講座を予定している。昨年度と同じ千田伸子氏を講師にお招きして、親子のコミュニケーションや家庭教育に関しての講演を計画している。
- ・高齢者教育事業は、各地区で魅力的な講座が開催できるように、ゆうゆうクラブ（老人クラブ）の役員と協力して計画を進めていく。

- ・生涯学習講座・教室は、文化センターが19講座、コミュニティセンターが20講座の計画を立てている。各地区コミュニティセンター及び藤江公民館で開催する講座は、受講者が固定化しない地域のニーズに応じた学習機会の提供に努める計画である。
- ・「ひがしうら地域クラブ」では、新たに「総合文化クラブ」の活動開始に向けて、指導者の確保など、準備を進めている。

<郷土資料館ポイント>

- ・地域文化財総合活用推進事業は、文化庁の補助を受けて、生路南組の屋形整備事業を実施する。
- ・小学生による地域文化財紹介動画の作成「ふるさとPR ちびっこガイドになろう！」の事業は、片葩小学校、石浜西小学校に依頼する予定である。
- ・郷土資料館の主体事業である春と秋の企画展と、ミニ企画展は4回程度開催する予定である。
- ・東浦町内の文化財や歴史を案内する「東浦ふるさとガイド協会」の会員として活動していただける方を増やしていけるように、毎年「ふるさとガイドボランティア養成講座」を開催している。

<中央図書館ポイント>

- ・図書館の予算は、3年間のトータル予算として議会の承認を得ている。そのため、昨年、一昨年の電気・ガス代の高騰の影響を受けて、資料購入費が若干減っている。
- ・新規事業として、特別資料室（久松潜一先生・久米常民先生の部屋）をリニューアルする。また、子どもたちに図書館を好きになってもらうための児童書架の整理などを進めていく。
- ・継続事業として、6月に行われるMLA連携特別講座「万葉のともしび」は、久松潜一先生生誕130年を迎えるにあたり、國學院大學文学部教授上野誠氏を講師に迎えて実施する
- ・「図書館おたすけ隊」「高校生ボランティア in Library」は、小学校高学年から大学生までを対象にしている。
- ・子ども読書活動推進計画では、第4次の計画がスタートする。デジタル化が進んだ学校において、子どもたちの読書活動をどうやって伸ばしていくか生涯学習課と立案した計画に基づいて活動していく。

<スポーツ課ポイント>

- ・ニュースポーツ普及事業として「モルック」は人気があり、スポーツ委員会を中心に東浦町のスポーツとして普及していきたい。
- ・「ランニングのスキルアップ講座」を実施した。2回で220名ほどの申込があり、小学校1年生から中学生までを対象に、走ることに興味をもってもらい、東浦町の体力向上につなげていきたい。
- ・ひがしうら地域クラブについては、8活動実施予定で、今後は参加者のニーズを踏まえ活動を充実したい。
- ・藤江コミュニティセンター、西部・北部ふれあいセンターの3センターのLED照明工事を実施する。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

自分が資料館の陶芸講座に参加した時は、参加した者同士がお互い知り合い、新たな絆が生まれてきた。それぞれの課の報告を聞いていると、地域の絆づくりのための講座を設

けていることが分かった。

◇委員

図書館の選書の方法とすでに購入した図書の活用状況によって選書の見直しを行っているのかを教えてください。

◆事務局

東浦町中央図書館の選書方針に基づいて購入を進めている。利用の傾向を見ながら、総記から文学関係まで幅広く取り揃えている。また、東浦町では、リクエスト制度があり、利用者からのリクエストを日々受け付けている。

◇委員

公立図書館と小学校・中学校・高校の図書室との連携はあるのか。

◆事務局

東浦町では、図書館サポーターを4名採用している。この4名が、町内の小学校・中学校に定期的に訪問して、図書教諭といっしょに子どもたちの読書の機会を提供している。また、図書館サポーターさんと隔月ミーティングを行い、各学校でどんな読書活動をしたかななどの情報交換を行っている。その報告を基に、図書館の司書がアドバイスをしている。学校図書館のサポートとしては、学校図書館の図書を補う形で、団体貸出制度がある。図書館サポーターが1校当たり150冊のパッケージをいくつか作り、学校間で巡回して共有してもらうようにしている。

◇委員

生涯学習課のミュージックフェスティバルは毎年盛況であるということであるが、実行委員会はどういう組織であるか教えてください。

◆事務局

ミュージックフェスティバルは、もともと「ヤングフェスティバル」という名前で立ち上がった音楽イベントである。当時から、青少年育成を目的としていたので、音楽に興味のある若者に集まってもらって実行委員会を組織したのが始まりである。実行委員は毎年更新するのではなくて、当初の実行委員に新たにバンドをやっている若者や音楽に興味のある若者に声をかけて実行委員会として組織している。公募はしていないが、開催案内にボランティアスタッフの募集をして仲間を増やすようにしている。

◇委員

毎年困ることなく、スタッフが集まっているということか。

◆事務局

毎年やっていただいているメンバーに、新たに加わってもらうメンバーもあり、特に運営に困っていることはない。地元の東浦高校だけでなく、去年は半田高校や日本福祉大学付属高校も参加されており、20団体の参加団体があった。出演団体の増加とともに、実行委員も増えてくれればいいと考えている。

◇委員長

中学生で書道や絵画を一生懸命がんばっている生徒もいるので、ひがしうら地域クラブの文化活動に、「総合文化クラブ」ができるのはいいことである。一点要望であるが、郷

土資料館では毎年企画展が行われている。企画展は、春・秋の企画展、ミニ企画展が行われている。職員にとって、何を企画するかで毎年頭を悩ませていると思う。このようなたいへんな思いをして開催される企画展を、町民だけでなく町外の方々にもっと知ってもらいたいと思っている。中日新聞に掲載されると、翌日から来館者が増えるということであったが、その他PRの仕方を工夫していただきたい。このように考えるのは、先日の中日新聞に、飛騨地方の小規模の博物館が存続の危機にあるという記事が掲載されていたからである。わたしたちの郷土資料館は東浦町の宝で、歴史や文化の基になるところである。そこが、存続の危機に陥らないようにして欲しい。図書館について、選定された図書でも、よく利用される図書とあまり利用されない図書がある。以前ニュースで、大館市の花矢図書館では、児童書の「ベスト VS ワースト どっちがおもしろい？対決！」という企画があった。このような面白い企画も参考にいただければありがたい。

「2024 年度事業計画」について更なる意見がないことを確認し、議事4「その他」について事務局から説明を求める。

◆事務局
特になし

◇委員長
その他の案件がないことを確認し、議事の終了を宣告。

◆事務局
次回は、令和6年10月の予定であるが、研究の進み具合によっては、小委員会に変更する。決まり次第早めに連絡。

備考	なし
----	----